校　長	教　頭	教　務	学年主任	担任

学校感染症による登校許可書（2023年度版）

佼成学園女子中学高等学校

年　　組　　番

生徒氏名

上記の生徒は下記〇印の伝染病が軽快し、かつ学校保健安全法の出席停止の期間の基準により、伝染のおそれがないと認めたので、　　年　　月　　日より登校を許可します。

出席停止期間　　年　　月　　日　～　　月　　日

学校感染症の種類と出席停止期間の基準（令和５年５月８日改定）※詳細については別紙参照

種別	〇をつける	感染症名	出席停止期間の基準
第１種		病名（　　）	治癒するまで
第２種		＊インフルエンザ	発症した後５日を経過し、かつ解熱した後２日を経過するまで
		百日咳	特有の咳が消失するまで、または５日間の適正な抗菌薬療法による治療が終了するまで
		麻しん	解熱した後３日を経過するまで
		流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後５日を経過、かつ、全身状態が良好になるまで
		風しん	発しんが消失するまで
		水痘	すべての発しんがかさぶたになるまで
		咽頭結膜熱	主要症状が消退した後２日を経過するまで
		＊新型コロナウイルス感染症	発症した後５日を経過し、かつ、症状が軽快した後１日を経過するまで
		結核	症状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めるまで
		髄膜炎菌性髄膜炎	症状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めるまで
第３種		コレラ	症状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
		細菌性赤痢	
		腸管出血性大腸菌感染症	
		腸チフス	
		パラチフス	
		流行性角結膜炎	
		急性出血性結膜炎	
		その他： 病名（　　）	

※上記＊の疾患については、医療機関の証明書が不要であるため、「登校許可書」は保護者の方が記入してください。

さらに医療機関で発行された「領収書」もしくは「調剤明細書」のコピーを添付して、学校へ提出してください。

※もし、受診医療機関がない場合には担任へご相談ください。

年　　月　　日

医療機関名

医師名

（保護者氏名）

学 校 長 殿

学校において予防すべき感染症の種類及び出席停止の期間の基準（学校保健安全法施行規則第 18、19 条）

	考え方	感染症の種類	出席停止の期間の基準
第一種	感染症予防法の一類感染症及び二類感染症（結核を除く。）	エボラ出血熱 クリミア・コンゴ出血熱 痘そう 南米出血熱 ペスト マーブルグ病 ラッサ熱 急性灰白髄炎 ジフテリア 重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。） 特定鳥インフルエンザ（感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律（平成十年法律第百十四号）第六条第三項第六号に規定する特定鳥インフルエンザをいう。）	治癒するまで ※感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第六条第七項から九項までに規定する「新型インフルエンザ等感染症」、「指定感染症」及び「新感染症」は第一種の感染症と見なす。
第二種	空気感染 または、飛沫感染する**感染症**で児童生徒の罹患が多く、学校において流行を広げる可能性の高いもの	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザを除く。）	発症した後５日を経過し、かつ解熱後２日（幼児にあたっては３日）を経過するまで
		百日咳	特有の咳が消失するまで、または５日間の適正な抗菌薬療法による治療が終了するまで
		麻しん	解熱した後３日を経過するまで
		流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後５日を経過、かつ全身状態が良好になるまで
		風しん	発しんが消失するまで
		水痘	すべての発しんがかさぶたになるまで
		咽頭結膜熱	主要症状が消退した後２日を経過するまで
		新型コロナウイルス感染症（病原体がデータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）	発症した後５日を経過し、かつ、症状が軽快した後１日を経過するまで（発症日を０日目とする。また、無症状感染の場合も同様とする）
		結核	病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めるまで
		髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めるまで

第3種	学校教育活動を通じ、学校において流行を広げる可能性があるもの	コレラ 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス パラチフス 流行性角結膜炎 急性出血性結膜炎	病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めるまで
	条件によって出席停止の措置が考えられるもの	その他の感染症 溶連菌感染症 A 型肝炎、B 型肝炎 手足口病 伝染性紅斑 ヘルパンギーナ マイコプラズマ感染症 感染性胃腸炎 など	学校で通常見られないような重大な流行が起こった場合に、その感染拡大を防ぐために、必要があるときに限り学校医の判断を聞き、校長が第三種の感染症として緊急的に措置を取ることができる。

関係法令）学校保健安全法施行規則第 18、19 条及び学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令（令和５年文部科学省令第 22 号令和５年５月８日施行）